

第85回番組審議会議事録

1. 開催年月日 令和2年11月24日(火) 午前10時～11時30分
2. 開催場所 COM倶楽部会議室 (箕面市船場東2-5-47 COM3号館5階)
3. 委員の出席 委員総数 6名
- 出席委員 5名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、神垣美代香、中川弘佳、
智内威雄、桑田政美
- 欠席委員の氏名 須貝昭子
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (代表取締役社長)
太平麻由美 (取締役放送局長)
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 開局25周年記念 Go to リモートトラベルキャンペーン
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

新型コロナウイルスの影響で遠出が難しいなか、リスナーのみなさんに旅行気分を味わっていただこうと、箕面から離れた場所にお住まいのゲストにリモートでお話を伺いました。遠くはアメリカやセブ島、九州や四国などの地域の観光や魅力に加え、当局開局 25 周年にちなみ、ゲストの「25 年」の歩みもお話に添えていただきました。例年、開局特番は、局のパーソナリティが集まって、スタジオを飛び出し、箕面市内で公開放送を実施しています。今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、公開放送の実施を控え、パーソナリティに一体感をもって 25 周年を意識してもらうことを大きな目的とし、コロナ禍のいまできることを考えました。

加えて、放送後にタッキー 816 の YouTube チャンネルで公開し、ゲストのご友人たちにもお聴きいただけるようにしました。

ゲストトークを通じてパーソナリティ自身の 25 年も見えてくる場面もあり、いつも親しんでくださっている箕面の聴取者のかたにも、ラジオと SNS を通じて 25 周年をアピールするとともに、パーソナリティの横顔を楽しんでいただきました。

(2) 審議

委員長：事務局から番組説明がありました。それではさっそく番組審議をお願いします。

委員 A：初めにベテランのパーソナリティが元気よくタイトルをアナウンスされていて普段の番組の雰囲気とは違うといった感じが出ていました。コロナに対しての現状をもう少し聞いてもらいたかった。企画は悪くなく、「GOTO」にもかけていていいのですが同窓会的な雰囲気でも物足りなさを感じました。

委員 B：タイトルを聞いてわくわくしながら聞いたのですが、所々にトラベルの要素が入ってはいるのですが、それよりもプライベートな話の方が盛り上がっていて、内容が全く入ってこなかった所がすごく残念でした。プライベート

なお話は最初の 2~3 分でとどめて、後はリモートトラベルという部分に終了してもらいたかった。

委員C：タイトルはとて面白いなと思いました。これでかなり心を掴まれたのですが、聞いてみると若干の物足りなさを感じました。いくつかポイントはあると思いますが、まずはガイドラインはあったのかと。例えば各地を紹介するのなら、自然、食、文化、建造物みたいなそういったガイドラインを最低一回は入れるようにしたら、聞いている方は安心して「ああ徳島か」みたいに聞けるのですが。そういったものが統一されていなかったように感じました。あともう一つは、今回は Zoom アプリを使っているので、機器の使い方の整理をした方がいい。お互い被るようにしゃべると、同時に声が聞こえたり、遅延が起きるので、インタビュー形式ではなく、まとめてパーソナリティが喋ってそれを振っていくというのも Zoom アプリの特性にあっているのかと。その辺りをもう少し整理できれば、もっといろいろな話が引き出せたのでは。さらに、音楽家としては、どうしても選曲が気になりました。トラベルと全然関係がない曲だったと。もう一つは、これは一番大きい所になるのですが、GOTO キャンペーンとの絡みがなかった。箕面から外を見るというのも一つの方法ですが、箕面は観光地なので外から来られるかたもいるわけで、そういうかたたちの声をひろうことで、箕面を知るみたいな、そういった方向で話を聞くと、もう少し題名が生きてきたのではと感じます。やり方によっては伸びしろのある番組だとは思いました。

委員D：結論的に言えば少し中途半端な気がしました。タイトルを見たときにオンラインバスツアーを想像しました。それがラジオ版だったらどんな風になるのかと期待しながら聞き始めましたが、聞いてみると物足りないというより、どっちかにしてよという印象でした。例えば、赤穂でも徳島でもトラベルというテーマであれば、行きたくなるような思いに向けるというのが大事。ガイドになりきって現地を案内しながら進むみたいに。15 分という時間で地域めぐりみたいに楽しめたと思います。内容的には「私の友達は今何してる」みたいな感じでしたので、コロナ渦において各地の人が今こんな風に生きているんだという風にも出せたかも。どちらかに絞るとというのが大事で、そうすればより良い番組になると考えます。

委員長：冒頭で開局 25 周年記念としているので、記念番組としてお祭りのな感覚で聞きました。パーソナリティが普段懇意にしている人へのインタビューで、リラックスした感じで友達や知り合いとワイワイ普段のやり取りをしている

る、それがいつもと違う楽しさだと思って、楽しく聞かせていただいた。ゲストのかたが地元の方言で喋られたのを聞いて、インパクトがありました。
委員C：やはり音のことなんですが、お祭りの音が欲しかった。話だけではなくて、徳島だったらあの迫力の重低音みたいな、何でもいいんですが、波の音とか、その土地へ行った感じがする音を。

委員D：25周年など、やはりそういう節目は大事にしてほしい。コロナ渦でラジオの需要も上がっています。今一度どういうことをやっていけばいいのか考えてみてもいい。外出がままならないので、こういった旅番組もそうですし、箕面の音など、忘れられたものも番組の中で生かして、もう少し工夫したり掘り起こしたりするのも大事だと思います。

委員長：25周年という機会を利用して、これはみのおエフエムにしかない、もしくはこれはみのおエフエムがやり始めたというようなことを探して、原点に戻って見直してみたら、意外とこんなことができるのかなるかもしれません。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<https://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

令和2年11月24日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会